



進路だより

令和4年度 第10号
令和5年 1月20日
島根県立大東高等学校
進路指導部 発行

速報:今年1月の大学入学共通テストの結果について

(1) 各科目平均点の推移と前年との比較

理科②で得点調整が実施されました！

○ 総合の平均点は昨年度より、文系は22.5点、理系は30.8点のアップ。

右の表中の各科目の平均点は大学入試センターの発表による、100点満点に換算した値です。2020年度までは大学入試センター試験、2021年度から大学入学共通テスト（以下「共通テスト」）です。また、900点満点の数値は河合塾の推定値で、今年(2023)の平均点は大学入試センターが1/20(金)に発表した「中間集計その2」です。

理科②の物理と生物の平均点に20点以上の差がつき、これが試験問題の難易差に基づくものと認められたため、得点調整が行われました。詳しくは大学入試センターのHPをご覧ください。

7科目文系型：国(200)・地公(2科目で200)・数(2科目で200)・理(100)・英(200)の900点満点

7科目理系型：国(200)・地公(1科目で100)・数(2科目で200)・理(200)・英(200)の900点満点

※英語はリーディング(筆記)＋リスニングの2科目で200点。

※理科は、文系：「理科①2科目(Aパターン)」or「理科②1科目(Bパターン)」で100点満点

理系：「理科①2科目+理科②1科目(Cパターン)」or「理科②2科目(Dパターン)」で200点満点

教科・科目名		(満点)	平均点				
			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年差
国語		(200)	119.33	117.51	110.26	105.74	-4.52
地理 歴史	世界史B	(100)	62.97	63.49	65.83	58.43	-7.40
	日本史B	(100)	65.45	64.26	52.81	59.75	6.94
	地理B	(100)	66.35	60.06	58.99	60.46	1.47
公民	現代社会	(100)	57.30	58.40	60.83	59.46	-1.37
	政治・経済	(100)	53.75	57.03	56.77	50.96	-5.81
	倫理・政経	(100)	66.51	69.26	69.73	60.59	-9.14
数学①	数学Ⅰ・A	(100)	51.88	57.68	37.96	55.65	17.69
数学②	数学Ⅱ・B	(100)	49.03	59.93	43.06	61.48	18.42
理科①	物理基礎	(50)	33.29	37.55	30.40	28.19	-2.21
	化学基礎	(50)	28.20	24.65	27.73	29.42	1.69
	生物基礎	(50)	32.10	29.17	23.90	24.66	0.76
理科②	物理	(100)	60.68	62.36	60.72	63.39	2.67
	化学	(100)	54.79	57.59	47.63	48.56	0.93
	生物	(100)	57.56	72.64	48.81	39.74	-9.07
英語	リーディング	(100)	58.15	58.80	61.80	53.82	-7.98
	リスニング	(100)	57.56	56.16	59.45	62.35	2.90
7科目文系型平均点		(900)	559	564	520	542	22
7科目理系型平均点		(900)	564	581	523	554	31

(2) 2023年度大学入学共通テストの分析

※以下のデータや図はすべて河合塾によるもので、許可を得て転載しています。平均点は河合塾の集計に基づくもので、(1)の大学入試センターが発表した中間発表の平均点（全受験生分）や、他社が発表しているデータとは異なる場合があります。

①出題トピック

- ・出題傾向に大きな変化なし。
- ・複数資料の提示、日常や学習場面を中心に問題解決を題材とした出題、教科特有の「思考力・判断力・表現力」をより深く問うという問題傾向やコンセプトは継続。
- ・問題分量は前年よりさらに増加。問題の構成も複雑で、時間内にすべて解答するのは厳しい教科が多かった。(問題冊子のページ数が最も増えたのは、国語、世界史B、数学Ⅰ・数学Aの3教科で、それぞれ4ページ増加。しかし数学Ⅰ・数学Aの場合、問題文量は増えたが問題は読みやすくなり、計算の負担が軽くなったため、平均点は上昇した。)

②主要3教科の度数分布と平均点について

▼国語：古典の平均点は昨年とほぼ同じであったが、現代文が難化したため、前年より平均点が約4点ダウン。

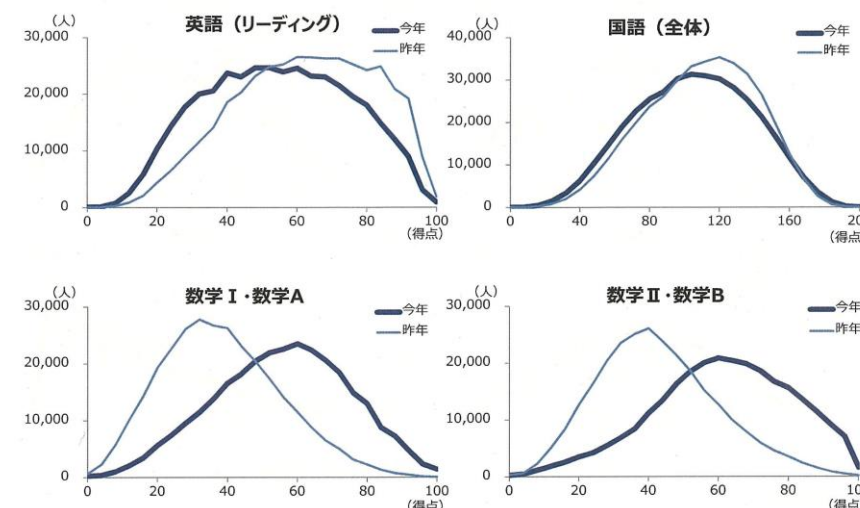
▼英語：リーディングの平均点は昨年より約8点ダウン。リスニングの平均点は約3点アップ。

▼数学：Ⅰ・Aは平均点が約17点アップ。Ⅱ・Bは平均点が約18点アップ。

2023年度共通テストの概況

河合塾

【共通テストリサーチ】主要科目の得点分布



③5教科7科目型(900点満点)について

▼文系：昨年に比べて平均点がダウンした教科があったものの、数学が大幅にアップしたため、全体としての平均点が+22.5点となった。得点率が8割以上の層(720点以上の層)が前年比199%に大幅に増加し、6割以上8割未満の層(540～720点の層)も同109%に増加した。

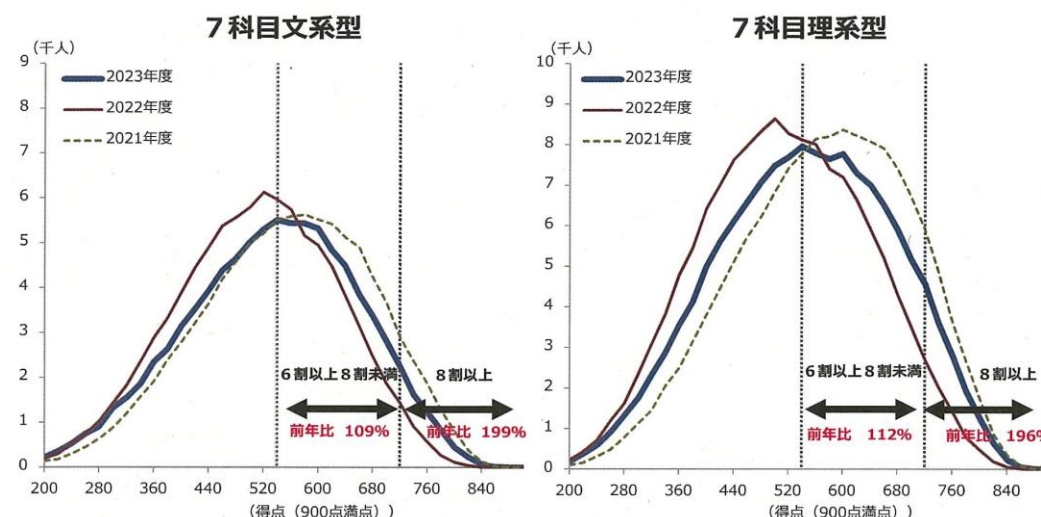
▼理系：文系同様、昨年に比べて平均点がダウンした教科があったものの、全体としての平均点が+30.8点となり、文系よりもさらに上がった。得点率が8割以上の層(720点以上の層)が前年比196%に大幅に増加し、6割以上8割未満の層(540～720点の層)も同112%に増加した。

文系・理系ともに昨年よりアップしたものの、一昨年よりは低い。

2023年度共通テストの概況

河合塾

【共通テストリサーチ】7科目受験者の得点分布

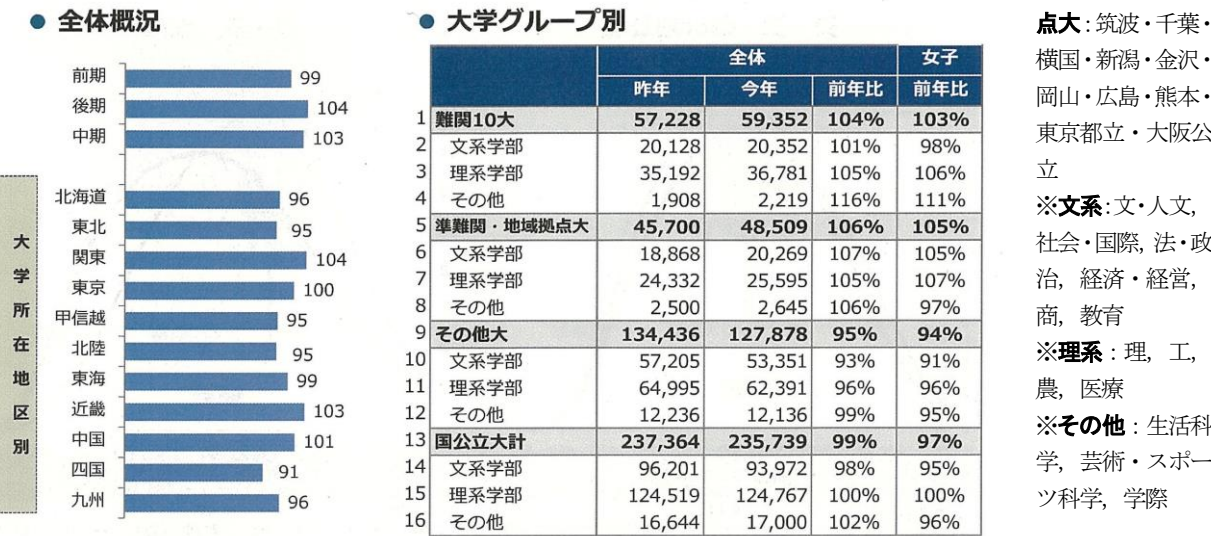


（３）国公立大学の主な志望動向について

①**全体概況**（グラフ内の数値は出願予定者の前年比（％），「地区別」「大学グループ別」は**前期日程**で集計。）
後期・中期日程ではそれぞれ前年比 104％，103％と積極的に受験を考えている受験生が増加したが，前期日程への出願予定者は同 99％。これは受験人口減少によるものと考えられる。また，共通テストの平均点アップにより難関 10 大学，準難関・地域拠点大の志願者はそれぞれ前年比 103％，105％と増加しており，強気の出願予定者が増加した一方で，その他の大学では出願予定者が減少している。中国地区の国立大学は前期日程で，島根大学前年比 87％，鳥取大学同 100％，岡山大学同 113％，広島大学同 95％，山口大学同 100％。岡山大学は後期日程をすべて廃止した影響が出ている。

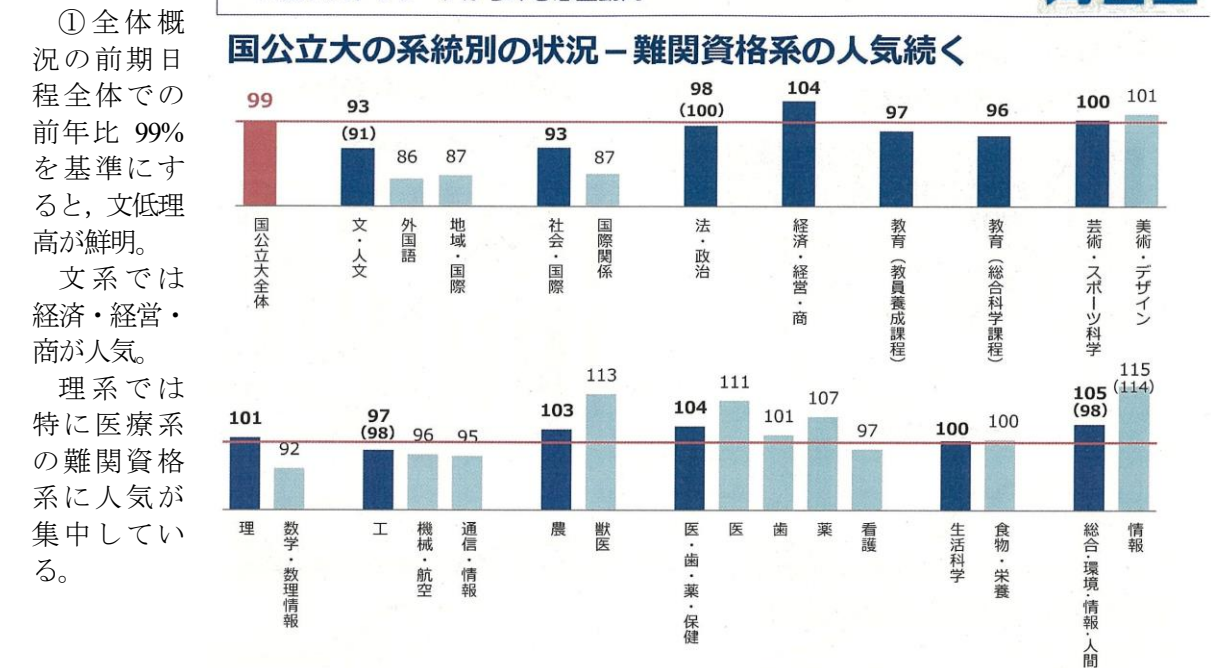
共通テストリサーチからみる志望動向

国公立大の志望動向（全体概況）



②**学部系統別の状況**（**前期日程**で集計。グラフ内の数値は出願予定者の前年比（％）。濃い色は学部系統を，その右側の薄い色は系統内の特徴ある分野（抜粋）を示す。（ ）内の数値は女子出願予定者の前年比。）

共通テストリサーチからみる志望動向

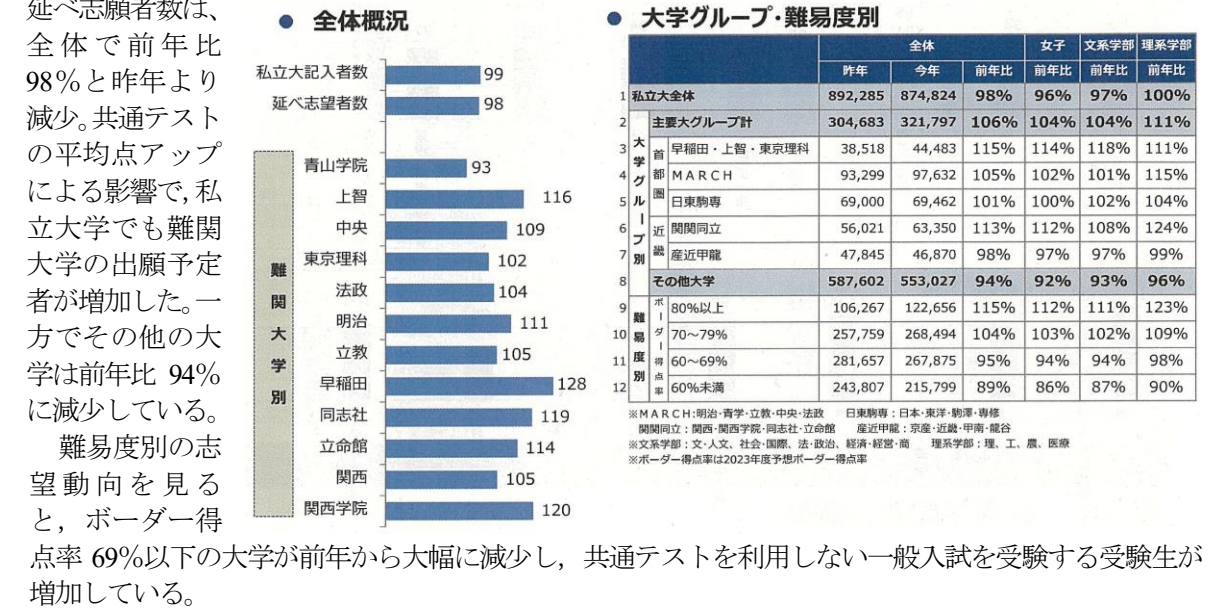


（４）共通テスト利用私立大学の志望動向について

①**全体概況**（グラフ内の数値は出願予定者の前年比（％），「大学所在地別」は延べ志望者数で集計。）
私立大学の共通テスト利用入試を出願予定の延べ志願者数は、全体で前年比 98％と昨年より減少。共通テストの平均点アップによる影響で，私立大学でも難関大学の出願予定者が増加した。一方でその他の大学は前年比 94％に減少している。

共通テストリサーチからみる志望動向

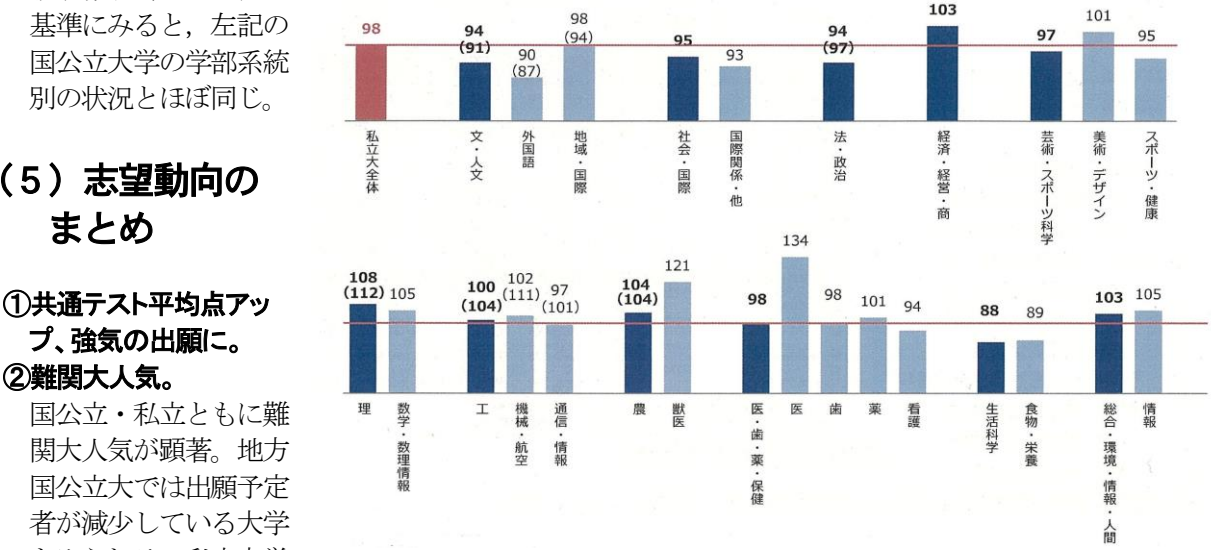
共通テスト利用私立大の志望動向（全体概況）



②**学部系統別の志願状況**（**共通テスト方式**で集計。グラフ内の数値は出願予定者の前年比（％）。濃い色は学部系統を，その右側の薄い色は系統内の特徴ある分野（抜粋）を示す。（ ）内の数値は女子出願予定者の前年比。）

共通テストリサーチからみる志望動向

私立大の系統別の状況－理工系で女子の人気顕著



①**共通テスト平均点アップ、強気の出願に。**

②**難関大人気。**

国公立・私立ともに難関大人気が顕著。地方国公立大では出願予定者が減少している大学もみられる。私立大学では，地方の大学や入試難易度が比較的低い大学で共通テスト利用方式の志願者減少率が高くなっており，共通テスト離れがうかがえる。

③**実学系，理系学部，難関資格系統が人気。**

将来を見据えた学部選びが増加している。文系では経済のような実学系，理系では農，医，薬，獣医などが人気。また，情報系は志望者が増加しているものの，学部新設によって入口が広がるため競争緩和が期待できる。